



苦節40年、悲願の金メダル獲得



カナダ・モントリオールで行われていた体操の世界選手権、冒頭から世界王者である内村選手の負傷棄権というショッキングなニュースが飛び込んできました。長崎県出身で、今大会も優勝候補筆頭に挙げられ、大会7連覇は確実とみられていた矢先の出来事でした。しかし、その欠場を埋めるがごとく、若手の白井選手が初出場の個人総合で銅メダル、種目別「床・跳馬」で金メダルを獲得するなど、すばらしい活躍を見せてくれました。



東京オリンピックで金メダルを目指す体操界は一安心だったと思います。そして、その後行われた女子の個人総合予選で村上選手がなんと日本人選手として初めて首位で決勝に進むことになりました。決勝では惜しくも4位となりメダルを逃しましたが、その後行われた種目別「床」ではすばらしい演技で金メダルを獲得しました。この金メダルは女子では63年ぶり、「床」では日本人初の金メダルでした。これまで男子のすばらしい活躍の陰で、なかなか上位進出を果たすことができなかった日本女子体操。しかし、競技力向上に当たってこられた指導者の皆さんはなんと1976年の「モントリオール・オリンピック」で世界を驚かせたコマネチ選手の



登場を見て、以来40年にわたって若年層（小学生・中学生）の指導・育成に努力をしてこられたそうです。そして、その成果が今回の金メダルにつながったということです。ちなみに、現在、全日本体操女子の強化本部長を務められている塚原千恵子さんは長崎市出身で、オリンピックにも出場され、かつて男子体操日本チームの主将も務めたことのある塚原直也選手のお母さんでもあります。金メダルを目指すスポーツに限らず、何か大きな目標を達成しようとするときに大事なことは、目標を持つ、達成するための方法を考える、そして、粘り強く、根気強く続けることだと思います。途中でうまくいかず、あきらめてしまえばそこですべて終わりです。あきらめない、絶対にできるという自信と忍耐力があれば必ず目標に近づけるはず。子どもたちには、将来に夢やあこがれを持ち、その実現に向けて志を立て、こつこつと努力を続けていってほしいと思います。Dreams come true.



お魚教室



10月12日(木)と13日(金)に1年生を対象に「お魚教室」を実施しました。佐世保魚市場協会の皆様のご指導の下、大きなアジを3枚おろしにするところから始まりました。お手本を見てはいたのですが、いざ自分がやるとなると力加減や包丁の動かし方が分からず、悪戦苦闘する子どももいました。刺身と蒲焼きを作りましたが、子どもたちはそのできばえに満足していたようです。また、自分が苦労して作ったものの味は格別のように、満面の笑顔で試食をしていました。水産県長崎、これから地元で水揚げされた新鮮な魚をたくさん食べてほしいと思います。



